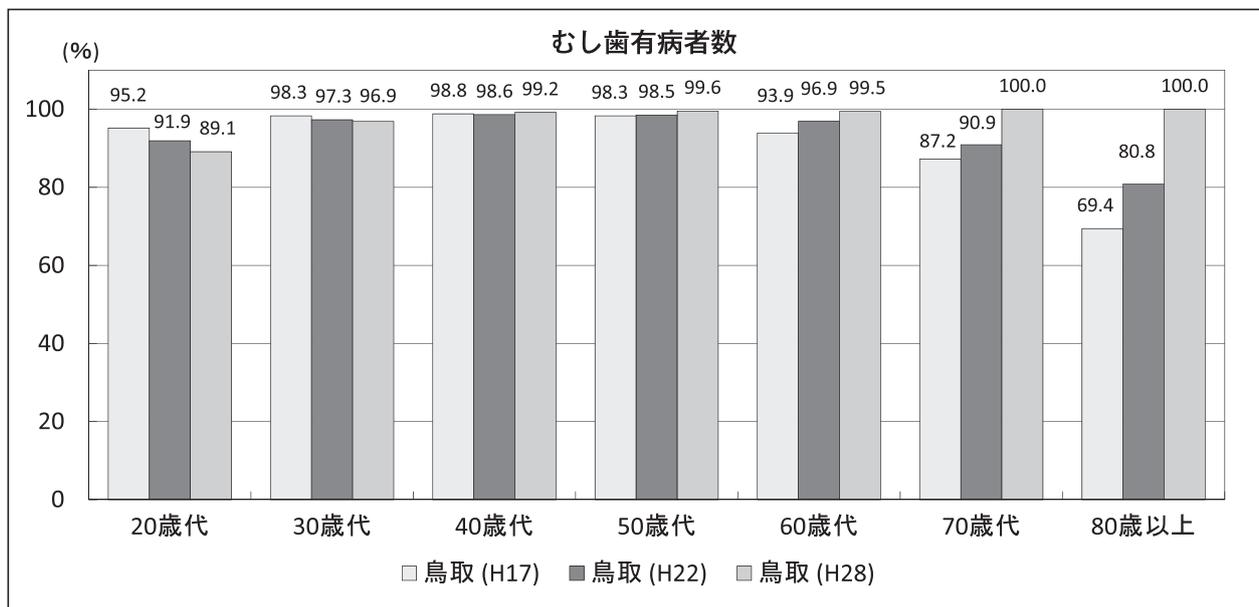


Ⅱ 歯科疾患実態調査の概況要旨

Ⅱ 歯科疾患実態調査の概要要旨

○むし歯の状況

むし歯に罹っている者の割合は、20歳代、30歳代では減少傾向が見られるものの、40歳～50歳代では横並び状態である。60歳代からは増加傾向にあり、70～80歳代においては増加傾向が顕著である。

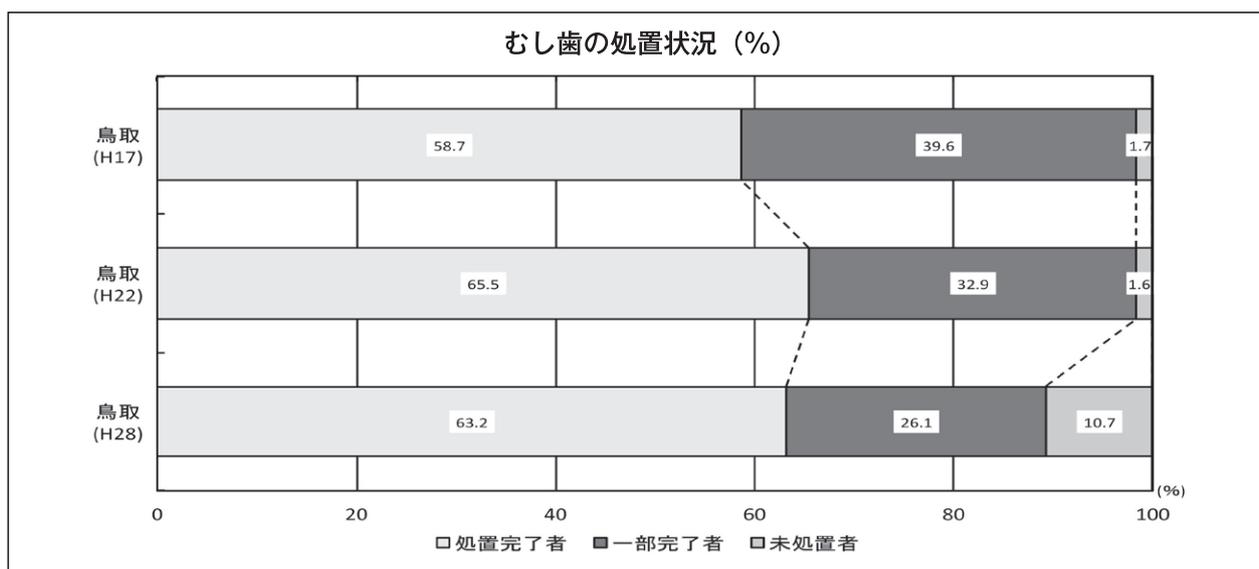


(単位：%)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
鳥取 (H17)	95.2	98.3	98.8	98.3	93.9	87.2	69.4
鳥取 (H22)	91.9	97.3	98.6	98.5	96.9	90.9	80.8
鳥取 (H28)	89.1	96.9	99.2	99.6	99.5	100.0	100.0

○むし歯の処置状況

処置完了者は、63.2%で前回調査に比べやや減少している。

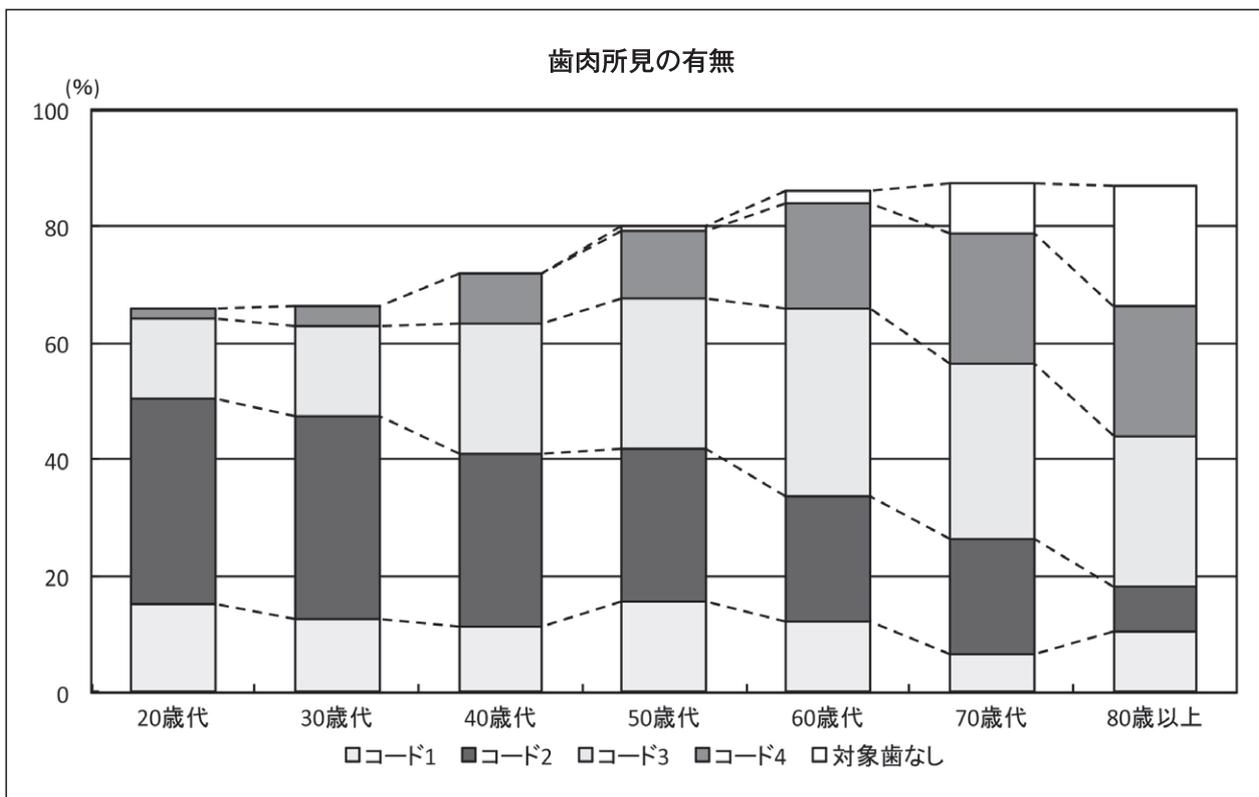


(単位：%)

	処置完了者	一部完了者	未処置者
鳥取 (H17)	58.7	39.6	1.7
鳥取 (H22)	65.5	32.9	1.6
鳥取 (H28)	63.2	26.1	10.7

○歯肉の状況

歯肉に所見のある者は、40歳代から増加傾向を示しており、高齢になるにつれて、コード3・コード4の割合が高くなっている。



(単位：%)

鳥取 (H28)	総数 (人数)	所見のあるもの					対象歯なし
		総数	コード1	コード2	コード3	コード4	
20歳代	322	65.8	15.2	35.1	13.7	1.9	0.0
30歳代	542	66.4	12.5	34.9	15.3	3.7	0.0
40歳代	479	72.0	11.5	29.4	22.3	8.8	0.0
50歳代	445	79.1	15.5	26.3	25.8	11.5	0.9
60歳代	374	84.0	12.0	21.7	32.4	17.9	2.1
70歳代	183	78.7	6.6	19.7	30.1	22.4	8.7
80歳以上	77	66.2	10.4	7.8	26.0	22.1	20.8

コード0 歯肉に炎症の所見が認められない

コード1 プロービング後に出血が認められる

コード2 歯石の沈着 (歯肉縁下4mmまでのプロービングによる検出を含む)

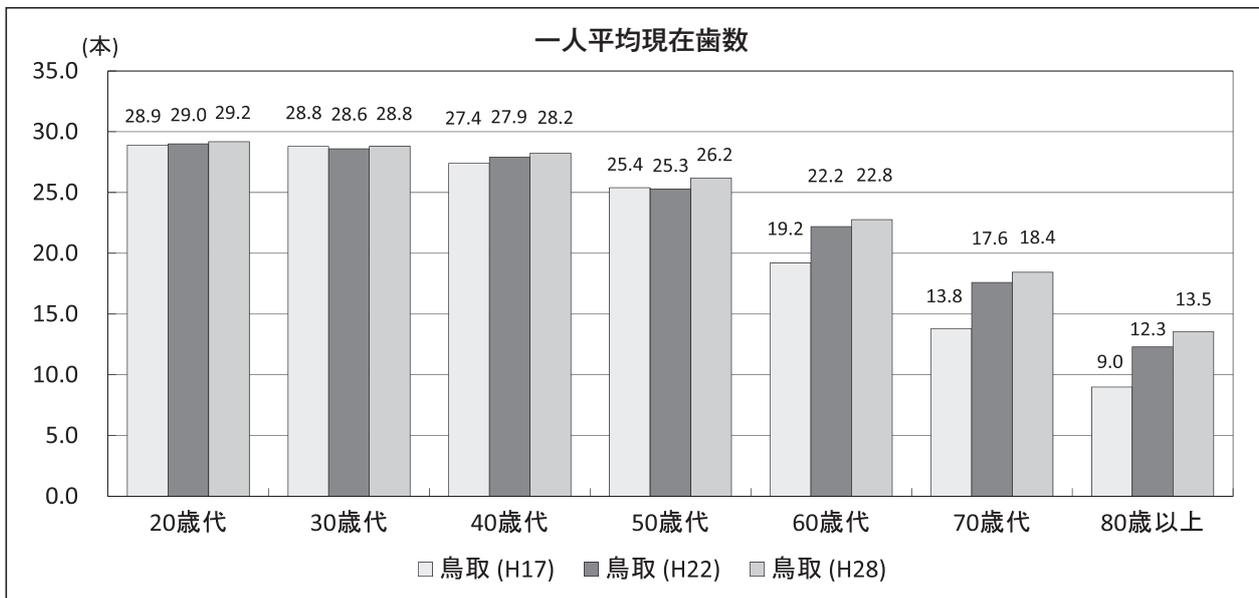
コード3 ポケットの深さが4mm以上6mm未満

コード4 ポケットの深さが6mm以上

○現在歯の状況

全ての年代において過去調査に比べて増加を認める。

40歳代までは徐々に少なくなり、50歳代以降で急激に少なくなっているが、減少する割合は前回調査に比べて緩やかになっている。

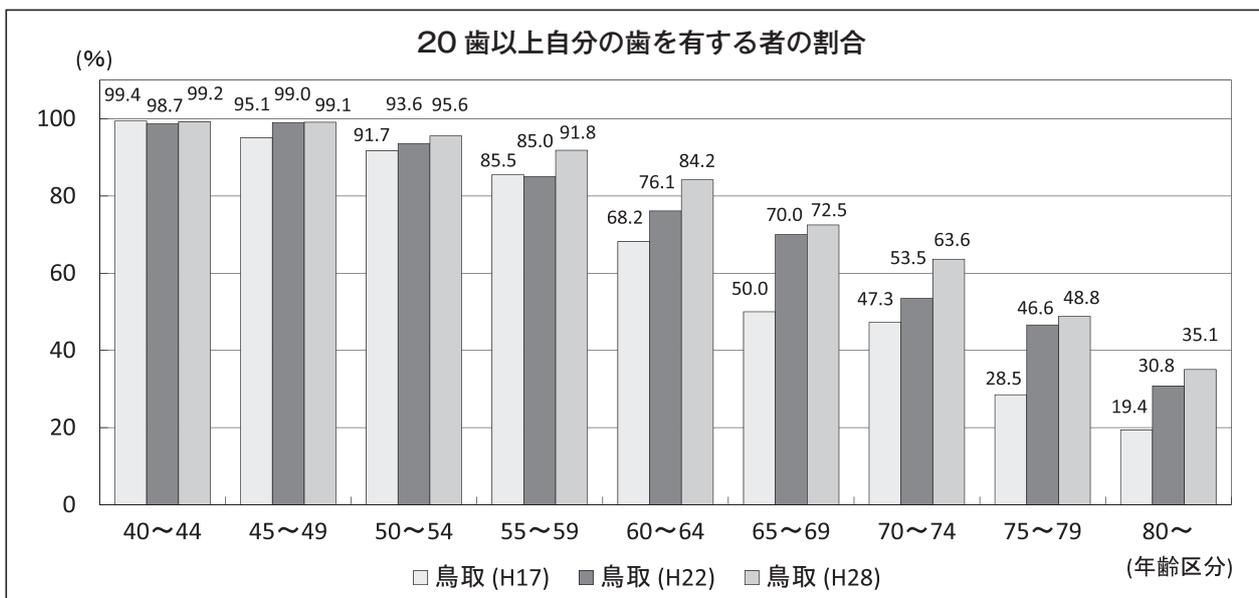


(単位：本)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
鳥取 (H17)	28.9	28.8	27.4	25.4	19.2	13.8	9.0
鳥取 (H22)	29.0	28.6	27.9	25.3	22.2	17.6	12.3
鳥取 (H28)	29.2	28.8	28.2	26.2	22.8	18.4	13.5

○20歯以上の歯を有する者

20歯以上の歯を有する者の割合は、全ての年代で全体的に増加傾向にある。また、高齢者においては、20歯以上有する者の増加は顕著である。

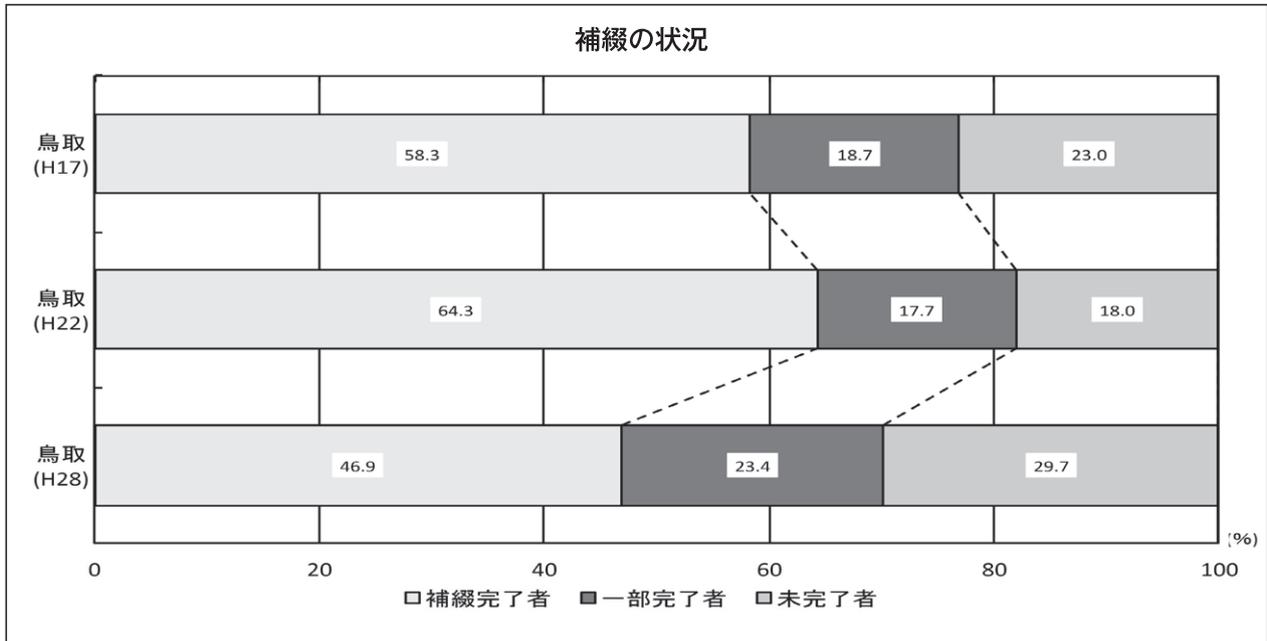


(単位：%)

年齢区分	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～
鳥取(H17)	99.4	95.1	91.7	85.5	68.2	50.0	47.3	28.5	19.4
鳥取(H22)	98.7	99.0	93.6	85.0	76.1	70.0	53.5	46.6	30.8
鳥取(H28)	99.2	99.1	95.6	91.8	84.2	72.5	63.6	48.8	35.1

○補綴（義歯装着）の状況

補綴完了者は、前回調査では64.3%と増加傾向にあったが、今回の調査では46.9%と大幅な減少が見られた。また、未完了者が29.7%と前回調査に比べて大きく増加した。



	補綴完了者	一部完了者	未完了者
鳥取 (H17)	58.3	18.7	23.0
鳥取 (H22)	64.3	17.7	18.0
鳥取 (H28)	46.9	23.4	29.7

補綴完了者 + 一部完了者 + 未完了者を100として算出